

区民参加型モニタリング調査（生きものさがし 2018）

1. 目的

区内に生息する生きものの現状確認や生物多様性の区民への普及啓発として実施し、今後はちよだ生物多様性推進プランの有効性（参加者数の動向等）の検証につなげていく。

2. 調査概要

- a. 調査期間 平成 30（2018）年 6 月 1 日～10 月 31 日
（生きものレポートの提出は 11 月 15 日まで）
- b. 調査地域 千代田区内全域
- c. 参加対象者 どなたでも
- d. 調査対象の生きもの

環境改善のバロメーターとなる次の生きもの

樹林・草地：モンシロチョウ・アゲハチョウ・トカゲのなかま、ススキ

水辺：トンボ・カエル・サギのなかま

その他の生きもの：セミのなかま（2015 年から調査対象に追加）

3. 集計結果

生きものさがし 2018 では、243 名の参加者から、1,058 件の情報が寄せられた。これまで 5 年間の集計結果を表 1・2 で示す。

表 1 集計結果

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
参加者数(人)	99	274	276	251	243
報告数(件)	230	840	1,249	1,341	1,058

表 2 調査対象種群別報告数の集計結果

2018年順位	種名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1	セミのなかま	-	206	334	335	298
2	トンボのなかま	34	155	270	268	203
3	アゲハチョウのなかま	84	147	202	191	141
4	モンシロチョウのなかま	41	88	148	131	94
5	カエルのなかま	10	68	68	50	58
6	ススキ	26	50	51	45	39
7	サギのなかま	16	19	37	44	38
8	トカゲのなかま	19	42	30	49	34
	その他	0	65	99	228	153
	合計	230	840	1,249	1,341	1,058

(参考) 表3 調査対象種以外で情報の寄せられた生きもの(「その他」で集計されたもの)

分類群	生きもの
哺乳類	コウモリ、ネズミ、イヌなどの5種
鳥類	カイツブリ、カモ、カワウ、ハクチョウ、ツバメ、スズメ、ハト、シジュウカラ、カラスなどの11種類
爬虫類	アオダイショウ、ミシシippアカミガメ、ヤモリなどの5種類
昆虫類	キリギリス、コオロギ、スズムシ、サトクダマキモドキなどのバッタのなかま、ミツバチやアシナガバチなどのハチのなかま、シジミチョウやツマグロヒョウモンなどのチョウのなかま、アリのなかま、カナブン、カミキリムシ、コガネムシ、ハナムグリ、ツチカメムシ、ウバタマムシ、テントウムシ、カマキリ、ゴキブリ、アブ、ハエ、カ、など40種類
クモ類	クモ、アシダカグモ、ジョロウグモ、オニグモの4種
土壌動物ほか	ダンゴムシ、ワラジムシ、ミズズミなどの5種
植物	タシロラン、ネコジャラシ、ハス、ハナミズキ、ヒマワリ、ヤブカンゾウの6種
その他	サカナ、メダカ、ザリガニ

表3では、調査対象種以外で報告が寄せられた「その他」の生きものの代表的なものを示した。全体では、「その他」として集計した生きものは81種におよんだ。このうち昆虫類が最も多く40種類、情報数84件である。カナブンやテントウムシなどのコウチュウ類が9種類19件、バッタ、コオロギなどのバッタ類が8種類17件、ミツバチ、クマバチなどのハチ類が6種類12件などがおもなものである。

4. 位置情報

地点別の報告件数割合を示したものが図1である。

生きもの情報の多かった地点は、昨年同様、北の丸公園で全体の18%、次いで、日比谷公園の14%であり、3位の東御苑7%以降の地点は、4%以下の報告件数であった。

図1 地点別の報告件数割合

